

# 令和7年度 横浜市・地方自治研究機構「都市の生物多様性の特性と評価に関する調査研究」報告書 概要版

## 序章 調査研究の概要

## 第1章 調査研究を取り巻く環境

ネイチャーポジティブの実現に向け、都市特性に応じた、国内外の最新の動向を踏まえた取組が求められることから調査研究を実施。

1992年  
生物多様性条約の採択  
国内では1995年に策定以降  
数次にわたり国家戦略の改定

2010年 COP10で  
初の包括的な世界目標である  
愛知目標の採択(戦略計画2011-2020)

指標等のツールによる状態把握を奨励

都市の生物多様性指標(簡易版)の策定

2021~22年 COP15で  
昆明・モントリオール生物多様性枠組の採択  
2030年までにネイチャーポジティブの実現を図る

### 30by30

- 2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として、効果的に保全・管理される地域とする目標
- 法的に保護される「保護地域」と民間等の取組による「OECM」の確保により目指される

### 自然を活用した解決策(NbS)

- 自然が持つ調整力を減災等に活用する取組
- 生物多様性に影響する気候変動の課題への対応も

2023年  
生物多様性国家戦略2023-2030の発表

### 自然共生サイトの認定

- 民間の取組等で生物多様性の保全が図られている区域を環境省が認定し、取組を進める。
- 2023年度に制度開始。2025年度から法により認定される。

### 自然を活用した解決策の推進

- 自然の多様な機能を活かした整備「グリーンインフラ」の推進 等

### ネイチャーポジティブ経済への移行推進

- 生物多様性への配慮を求めるネイチャーポジティブ経営、金融機関のESG投融資の推進

## 横浜市の概要

### 都市特性

- 東京に近接した、人口377万の大都市
- 市内総生産・事業所数等では、上位5位までにランクイン
- 市街化が進む一方、小規模緑地も多数

### 取組状況

- 生物多様性基本法に基づく地域戦略を2011年に策定(後に2015年に改定)
- 2018年に環境管理計画に地域戦略を含め、総合的に施策を推進

## 第2章 指標による横浜市の特性と評価

既存の指標体系を基に、都市の生物多様性を評価する新たな指標を再構築し、調査を実施して算定。

### 1 対象都市の選定

都市によって地形等環境は大きく異なる  
→横浜市の都市特性を踏まえた比較が必要

横浜市と都市規模・特性が類似すると考えられる  
・政令指定都市 ・都市率が70%以上(横浜市は81.7%)の都市を選定

さいたま市・川崎市・名古屋市・大阪市・堺市(市区町村コード順)を  
比較・分析対象として決定

### 2 既存指標の評価

既存の「都市の生物多様性指標(簡易版)」は2016年度に作成  
→最新の動向の取り込み等指標体系の再検討が必要

「本件への適応性」と「回答上の困難さ」により各指標を再検討

### 都市の生物多様性指標(簡易版)

### 生物多様性地域戦略策定の手引き 指標カタログ

- 新たな指標の体系のベースとする
- 2016年時点の内容のため、新たな動向の取り込みが必要

- 新たな動向の取込みの参照とする
- 都市間比較を想定していないため、指標の妥当性等を検討。

### 3 調査・評価手法

現在取得可能な、最新・詳細なデータを取り込み  
→他市と比較した横浜市の状況が分かる評価値の作成

#### 調査の方法

- 各都市を客観的に比較できるよう、
- GISデータ等を利用するなど、オープンデータを積極的に活用
- 取組の詳細を把握するため各市へのアンケートによる調査も実施

#### 評価の方法

数値によるものは、GISソフトでも利用される  
「自然分類法」に基づき3分類(A~C)で評価  
アンケートでの回答結果等は、回答内容をもとに分類を実施。

### 4 新たな都市の生物多様性指標による評価結果

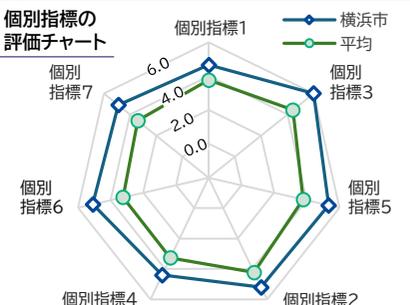
#### BD (Biodiversity) 指標

生態系のストックと生態系サービスに関する指標

個別指標	緑地等の現況 (都市における生物多様性確保の ポテンシャルを有する緑地等の割合)	横浜市ランク (総合評価値)
1		B (4.67)

個別指標	都市における エコロジカルネットワークの状況	横浜市ランク (総合評価値)
3		A (6.00)

個別指標	生態系サービスの状況	横浜市ランク (総合評価値)
5		A (5.33)



#### GM (Governance Management) 指標

生物多様性の保全に向けた自治体の取組状況に関する指標

個別指標	生物多様性保全に貢献する 区域の状況(保護地域・OECM等)	横浜市ランク (総合評価値)
2		A (5.20)

個別指標	動植物種の状況 (都市に生息・生育する 動植物種数に関する調査の実施状況)	横浜市ランク (総合評価値)
4		A (4.40)

個別指標	行政の生物多様性取組状況 (都市の行政計画や関連する施策等の取組に おける生物多様性の確保への配慮の状況)	横浜市ランク (総合評価値)
6		A (5.09)

個別指標	住民・企業等による 生物多様性に向け取組等への 実施状況	横浜市ランク (総合評価値)
7		A (4.89)

## 第3章 保護地域・OECM等に関する分析

横浜市も含めた調査対象の6都市の  
保護地域・OECM等に関する取組の状況を  
各市の情報に基づき整理・分析を実施。

## 第4章 海外先進都市における取組の整理

横浜市の参考となる先進的な取組を行う3都市を選定し、  
各市の生物多様性地域戦略に相当する計画等から分析を実施。

### ロンドン 生物多様性情報の可視化

- 地域戦略の中で、生物多様性に関する重要地域を明示する  
「ローカルハビタットマップ」をオンライン上で公開
- 地域内のグリーンインフラを定量評価を行う指標  
UGF(都市緑化指標)に基づく開発の推進

### バルセロナ 自然へのアクセス性の改善・市民参加の重視

- 地域戦略内で、都市住民の関与を重点分野として提示
- スケール別の緑地設置目標3-30-300ルールによる取組
- 交通政策・気候変動対策とも連携した都市計画モデル  
Superblocksモデルによる開発の実践

### パリ ネットワークの連結性重視

- 地域戦略では、緑・水域・土壌・夜間環境・騒音といった  
自然環境・生活環境の面からネットワークの連結性を重視
- 地域に均等に分布する学校に注目し、再自然化を推進する  
オアシススクールヤードプロジェクトに、市民も多く参加

## 第5章 横浜市における都市の生物多様性の課題・今後の方向性

『生物多様性国家戦略 2023-2030』の基本戦略ごとに課題・今後の方向性を整理。

### 基本戦略

### 1 生態系の健全性の回復

課題・今後の方向性

- 公的空間の維持管理 ・都市緑地の創出
- エコロジカルネットワークの維持 等

参考となる取組

- (パリ) 地域戦略の特徴
- (バルセロナ) 3-30-300ルール

### 基本戦略

### 2 自然を活用した社会課題の解決(NbS)

課題・今後の方向性

- 調整サービスの維持 ・供給サービス等の向上
- 生態系サービス・文化継承等の目標を含む  
地域戦略の策定 等

参考となる取組

- (バルセロナ) Superblocksモデル

### 基本戦略

### 3 ネイチャーポジティブ経済の実現

課題・今後の方向性

- 金融機関に向けた  
ネイチャーポジティブの普及啓発
- 市内企業のネイチャーポジティブ経済移行の  
機運醸成
- 事業者への自然共生サイト申請・認定の促進 等

### 基本戦略

### 4 生物多様性の価値の認識と行動

課題・今後の方向性

- 伝統文化や地域知識・伝統にも活用した  
地域の自然環境の保全・再生を行う自然共生サイトの申請
- 保全・再生活動に参加する市民・団体等との連携
- ネイチャーポジティブへの取組方針の明示 等

参考となる取組

- (パリ) オアシススクールヤードプロジェクト

### 基本戦略

### 5 生物多様性に係る取組を支える 基盤整備と国際連携の推進

課題・今後の方向性

- 多様な主体との連携による統合的取組の推進
- 市民参加型モニタリングの継続 等

参考となる取組

- (ロンドン) 都市緑化指標(UGF)の活用
- (ロンドン) ローカルハビタットマップの作成・公開